

記号	番号	分類	名称
A	68	文化財	勝山市指定文化財 聖観音菩薩立像
a	1	工コ町	安ヶ市跡
a	2	工コ町	平泉寺村役場跡
a	3	工コ町	天神堂
a	4	工コ町	小豆かしき
a	5	工コ町	源如坊清水
a	6	工コ町	北谷六地藏
a	7	工コ町	東尋坊跡
a	8	工コ町	常夜灯
a	9	工コ町	木船神社跡
a	10	工コ町	構口跡
a	11	工コ町	千日坂道場跡
a	12	工コ町	義兵衛清水
a	13	工コ町	いぼ岩
a	14	工コ町	金札
a	15	工コ町	梶の宮跡
a	16	工コ町	みろく堂跡
a	17	工コ町	南大門跡
a	18	工コ町	大地蔵跡
a	19	工コ町	むじな道(上)
a	20	工コ町	竜池小学校跡
a	21	工コ町	むじな道(下)
a	22	工コ町	池端道場跡
a	23	工コ町	合坂
a	24	工コ町	紺屋坂
a	25	工コ町	城山
a	26	工コ町	下馬大橋
a	27	工コ町	むじな道(中)
a	28	工コ町	大六坂
a	29	工コ町	千日坂
a	30	工コ町	若宮神社
a	31	工コ町	堀跡
a	32	工コ町	宮道場跡
a	33	工コ町	鳥吠小路
a	34	工コ町	蓮如腰掛石
a	35	工コ町	弁慶岩
a	36	工コ町	北釈迦堂跡
a	37	工コ町	九十九坂
a	38	工コ町	狼清水
a	39	工コ町	麻結地藏
a	40	工コ町	鬼ヶ市跡
a	41	工コ町	正光山普門寺妙覚院跡の碑
a	42	工コ町	正光山空心房跡
a	43	工コ町	深達院権僧正覚諱誕生の地
a	44	工コ町	槍形尖頭器発見の池
a	45	工コ町	下野白山神社跡
a	46	工コ町	寺野白山神社
a	47	工コ町	筥ノ渡し
a	48	工コ町	幕根遺蹟御所五郎丸屋敷跡
a	49	工コ町	壁倉の渡し
a	50	工コ町	筐野小学校跡
a	51	工コ町	長坊山東海和尚墓
a	52	工コ町	弁財天堂跡
a	53	工コ町	泰澄大師宿泊大岩窟
a	54	工コ町	金坂
a	55	工コ町	碁盤石
a	56	工コ町	弁財天堂跡
a	57	工コ町	大矢谷発祥の地

a 58 エコ町 じゅんさいの池

文章

勝山市指定文化財 聖観音菩薩立像 (裏)昭和六十三年二月十日指定 勝山市教育委員

平泉寺全盛の頃構口門を出たところにあったとされる市の跡

昭和二十九年九月に勝山市が誕生するまで村役場があった場所

平泉寺四十八社三十六堂のひとつ御神体は菅原道真この辺の字名は天神堂という

昔は2枚の大きな平たい石が掛けてあった。その橋下を流れる水の音がシャリシャリと小豆をかしく音に聞ここのあたりは源如坊という坊院があったことからこの名がついたという

大正三年に北中尾の墓地が向三味に 統合されたとき この地に移された

東尋坊は力が強く乱暴な僧であったので 一山衆徒の恨みをかい 三国の絶壁 から突き落とされた する

昔は毎夜灯りがともされた 村の 若者がよい嫁欲しさに灯の傘に 石を投げ乗ると願いが叶うと喜んだ

中世に平泉寺の安全祈願のため建立された社 御神体は船に乗った神様で今は白山神社境内に安置され

中世の平泉寺の正面を守っていた門この下に大きな堀があった

本覚寺の末寺で 後に 池端道場へ合流する

弘法大師が来られたときここに住む義兵衛がきれいな 水を差し上げたことからこの名がついたという

ー13 いぼ岩 大岩の中ほどに 五センチくらいの くぼみがあり中の水を いぼにつけると何時の間にか消

平泉寺全盛の頃 富くじや博打場として金のお札が舞った盛り場であったと伝えられる

平泉寺四十八社三十六堂のひとつ 根の宮ともいうこの辺の字名は 梶の宮という

平泉寺三十六堂の一つ 現在 木村家に伝わるみろく菩薩がまつられていた

中世(戦国時代)平泉寺の仏教伽藍の正面に建っていた門

現在、顕海寺に安置されている大地蔵は、この地にあったといわれている

平泉寺の最も古い道といわれ今も村の中心部を縦断している

平泉寺地区にあった小学校統合されて平泉寺小学校になった

平泉寺に伝わる古道

昭和三十六年頃までここに浄土真宗の道場があった

文章なし

平泉寺全盛の頃このあたりに紺屋があったという

城山道場この一角に平泉寺いさ奉行の朝倉景鏡の墓がある

菩提林の入口 浄川にかかる橋ここで馬を下り身を清めてからお参りした

平泉寺に伝わる古道

昔から伝わる坂道の名前

昔から伝わる坂道の名前

平泉寺四十八社三十六堂のひとつこの辺の字名は 若宮という

ここに堀があり上を土井の上下を土井の下と言った

本覚寺の末寺で火災の後池端道場へ合流する

兄に追われていた義経主従が観音堂に宿を取った時、夜中に一番鶏が鳴いて時を告げ、一行を追手から助蓮如上人がこの石に腰掛けて親鸞上人の説えを説いた松尾の山中よりここに移動した

昔から 弁慶岩といわれているこの辺の 字名は 弁慶岩という

その昔 釈迦堂があったところ

文章なし

昔狼が時々来て水を飲んだことからこの名がついたという

老婆が お堂の前に麻を干し 柴刈に出たところ 俄雨が降り慌てて帰ると 麻にきれいに結んでお堂の中に 平泉寺全盛の頃ここに市があったとされる平泉寺にこのような市が三ヶ所あった

一般碑参照

玄成院第九世慈観は赤尾へ隠棲 し 正光山普門寺妙覚院を開山 空心房は普門寺の一坊である これよ一七五三年赤尾上山家に生まれ八才で平泉寺に入山 のち上野輪王寺宮 日光医王院を経て 山形県羽

昭和六十三年この池の岸辺から先のとがった石器が見つかった これは一万二千年前縄文時代草創期に

明治十九年まで赤尾四社の内の一つがここにあった平泉寺の境外末社で赤尾小白山と称された

明治十九年の統一までは 赤尾に四つの神社があり この神社もその内の一つであった合併後も昭和二十

泰澄大師が白山への途中九頭竜川を渡りたかったが 舟がなく百姓に箱のふたで渡してもらった

九頭竜川右岸で河岸段丘上に立地する古い遺蹟 御所五郎丸が恩賞として壁倉周辺を拝領し社を建立

大野にいた朝倉景鏡は朝倉義景を自害させた ので 一向一揆勢に恨まれ逃げる途中 壁倉 の渡しを渡り 岩ヶ野小学校は明治二十五年廃校となり笹野小学校と合併した 笹野小は大正十四年平泉寺尋常高等小

笹尾に疫病が流行った為東海和尚が穴の中で疫病払いの念仏を唱え続け人柱となって死んだ

白山六千坊の一つ 弁財天堂は人のけがれを払い天地(災)地変を排し人の福德財宝を与える神

教ヶ岳噴火の際 生じた大岩窟は 岩影で泰澄大師が泊った「一の宿」とされる

文章なし

平泉寺六千坊時代、困碁の得意な お坊さん連中が、この碁盤石に より碁を打ったといわれている

平泉寺四十八社三十六堂のひとつこの辺の字名は弁財天堂という

場所	設置年月日	備考
平泉寺	昭和63.2	
平泉寺	平成16.6	
平泉寺	平成16.6	○
平泉寺	平成15.4	○
平泉寺	平成20.8	○
平泉寺	平成16.3	○
平泉寺	平成16.6	○
平泉寺	平成15.4	○
平泉寺	平成15.4	○
平泉寺	平成15.4	○
平泉寺	平成15.4	○
平泉寺	平成18.3	○
平泉寺	平成16.6	○
平泉寺	平成15.7	○
平泉寺	平成16.6	○
平泉寺	平成16.3	○
平泉寺	平成19.3	○
平泉寺	平成15.4	○
平泉寺	平成20.8	○
平泉寺	平成18.3	○
平泉寺	平成19.3	○
平泉寺	平成19.3	○
平泉寺	平成16.6	○
平泉寺	平成16.6	○
平泉寺	平成16.3	○
平泉寺	平成15.7	
平泉寺	平成15.4	○
平泉寺	平成19.3	○
平泉寺	平成20.8	○
平泉寺	平成20.8	○
平泉寺	平成15.4	○
平泉寺	平成19.3	○
平泉寺	平成18.3	
平泉寺	平成16.3	○
平泉寺	平成19.3	○
平泉寺	平成18.3	○
平泉寺	平成20.8	○
平泉寺	平成16.6	○
平泉寺	平成16.6	○
平泉寺	平成15.4	○
平泉寺	平成16.3	○
赤尾	平成17.3	○
赤尾	平成15.7	○
赤尾	平成18.3	○
赤尾	平成19.3	○
赤尾	平成16.3	○
赤尾	平成19.3	○
大渡	平成15.7	○
壁倉	平成16.3	○
壁倉	平成18.3	○
笹尾	平成18.3	○
笹尾	平成15.7	○
岩ヶ野	平成15.7	○
大矢谷	平成15.7	
平泉寺	平成16.6	
平泉寺	平成20.8	
平泉寺	平成18.3	